

新発想 企業探訪

株式会社アイテック
(東京都新宿区)

ロック板のない、安全な コイン駐車を開発

コイン駐車場に付き物のロック板をなくした、新たな駐車システムを開発・販売する東京都新宿区の株式会社アイテック。創業から18年。常に利用者の視点で「より安全・安心・便利に」を追求し、独自の開発力でコイン駐車を進化させてきた。

ナンバーをカメラで記録
不正出庫率は0.5%

コイン駐車場といえは、止めた車の下で昇降して不正出庫を防ぐロック板がおなじみだが、株式会社アイテックが現在展開している駐車システムにはこのロック板がない。初めて駐車した人は少し戸惑うようだ。ロック板なしで、どうやって車両の入出庫を管理しているのだろうか。

「駐車場に設置した看板にも記載してはいますが、実は料金を課金するボールにカメラが内蔵しており、車のナンバーを撮影し、記録しているのです」と同社代表取締役の一ノ瀬俊介氏がその秘密を説明する。

車が止まると、センサーが感知してカメラがナンバーを撮影し、同時に自動的に課金がスタート。撮影した画像とナンバー情報はインターネット回線を通じてデータセンターに送られ、保管される。

だが、その気になれば、料金を支払わずに出庫することは可能だ。そうした不正は起きないのだろうか。

一ノ瀬氏が言う。「駐車場経営者の最大の不安もそこにありました。しかし、我々の検証では不正出庫の比率は全体の0.5%にとどまっています。当社ではロック板式の駐車システムも求めに応じて販売していますが、当社の場合どちらの不正出庫率は1.0%ほどですから、それよりも低い。

カメラで撮影しているということがかなりの抑止力になっているようです」

しかも車のナンバーは保管されているので、不正出庫した車が次に同社のシステムの駐車場に駐車したら、警備員が駆け付け、運転手に連絡を求める文書をワイパーの間に挟んでおく。この措置で、自主的に料金を支払う運転手も少なくないという。そのため実際の不正率はさらに下がるといふ。

同システムを考案した一ノ瀬氏は精密機械メーカーの技術者として23年間働いた後、育児に専念するために1994年に退職。「子どもが育ちながら機械が好きで、もの作りが得意だった」と言う一ノ瀬氏は育児のかたわら、自宅で厨房用の機械の修理などを請け負う仕事を個人創業した。そんな中で、当時増え始めていたゲート式の駐車場のシステム開発を請け負ったのが、この世界へ入るきっかけとなった。



各駐車スペースに設置された課金用のボールに、30万画素のカメラを内蔵し車のナンバーを撮影。ロック板がないため、心理的に安心して駐車できる。

New Conception / Enterprise Inquiry



スマートフォンを使ってキャッシュレスで料金を支払える新たなシステムも開発した。

一ノ瀬氏は1997年に現在の会社の前身の会社を設立（2001年アイテックに社名を変更。機械の故障など駐車場内のトラブルに迅速に対応できる遠隔操作システム、企業の社員用駐車場向けのアルコルエッカー付き駐車場など、さまざまなシステムを開発してきた。その集大成ともいえるのがロック板のない駐車場だ。

「車に傷が付いたり、タイヤがこすれてパンクしたり、妊婦さんや足の不自由な人がつまずいたり、とロック板はユーザーにとってフレンドリーではなかった。私たちが実施したアンケートでも「ロック板にストレスを感じたことがある」と回答した人が約40%に上りました」と、一ノ瀬氏が開発の理由を説明する。

同社はナンバー認識用のカメラを独自開発するなどして2010年からロック板のないシステムの販売を開始した。採用する駐車場は初年度、数十カ所に止まったが、徐々に注目を集め、現在は大都市圏を中心に全国約450カ所、駐車車両台数約4300台分まで拡大した。



「お客様に不利益を強いしないシステムの開発を続けたい」と話す一ノ瀬氏。

同社はこのほかにも、駐車場の付加価値やサービスを向上させるため、利用ごとにポイントがたまるとシステムなどを開発してきた。そして今回、利用者が急増しているスマートフォンで料金を支払いできるシステムの独自開発に成功し、近くサービスを開始する。

「ユーザーのニーズをくみ取って、選ばれた駐車場づくりを今後も進めたい」と一ノ瀬氏。同社のコイン駐車場の進化は現在進行形だ。